

第1回 津山市教育振興基本計画検討委員会 会議録【概要】

○日 時 令和3年6月28日(月) 14:00～16:10

○場 所 津山市役所 202 会議室

○出席者

・津山市教育振興基本計画検討委員 8名

委員長 住野好久(中国学園大学・中国短期大学副学長)

副委員長 須江健治(株式会社すえ木工代表取締役社長)

委員 寺元貴幸(津山工業高等専門学校教授)

櫛田晃稜(津山市PTA連合会会長)

仁木かおり(津山教育事務所指導主事)

北山浩二(津山市中学校長会長)、小池尚(津山市小学校長会長)

矢野佳子(津山市立幼稚園長会長)

・事務局 教育長、教育委員会関係部課長等 10名

1. 開会

2. 教育長あいさつ

3. 委嘱状交付

4. 自己紹介

5. 委員長、副委員長選任

・委員長 住野好久 中国学園大学・中国短期大学副学長

・副委員長 須江健治 株式会社すえ木工代表取締役社長

6. 現状説明

(1) 津山市の教育について

(事務局説明)

・津山市の教育(教育要覧)に沿って教育施策の概要を説明。

・令和2年度の学力・学習状況調査の結果を説明。小学校では、基礎学力は年々改善しているが、記述問題や応用問題に課題が見られる。中学校では、状況はやや改善しているものの全国平均点より低く、記述問題や応用問題に課題がある。

・学習状況調査では、家庭学習の時間が少ないという課題がある。また、1日に2時間以上ゲームをする割合が学年を追うごとに高くなっている。地域行事への参加は高い割合となっている。

・いじめの1,000人当たり認知件数は、県と比べて高い割合となっているが、いじめの積極的な認知が進んでいることが要因であると考えられる。長期欠席・不登校者数については、小学校は増加傾向、中学校はほぼ横ばいの状況で、本市においても大きな課題である。暴力行為の発生件数は、小学校、中学校ともに減少傾向にあり、落ち着いた状況が続いていると考えられる。

・GIGAスクール構想に係る整備状況と活用状況を説明。令和2年度度末までに児童生徒約8,000台のタブレットと校内工事を整備。通信環境整備は今年度も引き続き実施する。

7. 議事

(1) 策定方針とスケジュールについて

(事務局説明)

・令和3年度をもって現計画期間が満了することから、この度、令和4年度からの本市の教育振興に向けた「津山市教育振興基本計画（第3期）」の策定を行う。

・計画策定の趣旨は、教育の振興のための施策に関する基本的な計画を策定し、本市が今後取り組むべき教育の振興に関する施策の基本的な方針を示すものとする。

・計画の策定主体は、津山市教育委員会とする。

・計画の策定期間は、今年度中とする。

・計画の期間は、令和4年度から令和7年度までの4年間とする。

・「津山市第5次総合計画」及び「教育大綱」をはじめとした他の計画等と整合した教育行政分野における総合的な計画と位置付ける。

・計画における教育の範囲には、幼児教育、学校教育、及び家庭・地域教育を含むものとする。ただし、県立・私立の学校で行われる教育内容や学校経営等は、各校の独自性の観点から、本計画には含まない。また、幼児教育も含まれるものとする。

・策定の進め方は、教育委員会及び関係各課で素案を作成、教育委員会関係部課長会議において検討しながら計画案を策定し、「津山市教育振興基本計画検討委員会」で意見を聞きながら計画に反映する。

・検討委員会は、本日を含め7回程度を予定している。

・全体の流れは、検討委員会を11月までに月1回程度開催し、計画の最終案を取りまとめればと考えている。教育委員会会議において進捗を諮り、12月に最終案を承認の後、パブリックコメントを行う予定。9月定例会市議会で、中間報告を行い、パブリックコメントを経て成案を3月定例会市議会で報告する。

(2) 計画の構成について

(事務局説明)

・第2期で取り組んだ内容の検証、統計データ分析、国及び県の動向を受け、本市の教育における課題を踏まえた取り組むべき方向性を示す。これらを踏まえ、本市が目指す教育の姿として、基本理念及び子どもたちの未来の姿を示し、基本方針の下で具体的な施策を

展開していくという形で構成したい。

(3) 意見交換

(委員の意見)

- ・子どもの目線に立った施策の検討をお願いしたい。
- ・マンガなど、子どもたちに親しみのあるものを活用した学びを検討してほしい。
- ・ICTを活用する時代に入っていく。教員を支援することと併せて、子どもたちにとっても楽しみながらきちんと教育し、早期から力を伸ばすような仕組みやサポートが必要だと思う。
- ・データの活用や読み取る力がこれからの子どもに必要なと思う。
- ・幼少期から学齢期まで一貫して育っていける地域コミュニティを構築し、地域の中で安心できる環境が必要だと感じる。
- ・ICTが進んでいく中で、人間関係においてはアナログな部分も取り入れながら、デジタルな部分とのバランスを取って進めてもらいたい。
- ・グローバルな人材を育てるにしても、その土台として自分の国・地域をきちんと知り、愛せることも必要だと考える。
- ・意欲のある子、コミュニケーション能力のある子を育てたい。
- ・幼児期の育ちをどのように教育に位置付け、学校に繋げていくかが大切だと思う。
- ・ICT教育も大事だが、実体験も大切にしながら子どもたちの心を育てたい。
- ・自己肯定感や自己有用感を高め、自信をもって自分の意見や考えを言える子どもに育ててほしい。
- ・スマホ・ゲーム等との付き合い方について、家庭・地域・学校の3者で子どもたちを見守る体制を作ることが大切だと思う。
- ・困難な事に立ち向かって一歩踏み出す力のあるたくましい子ども、主体性のある子どもに育ててほしい。
- ・学力に関しては、低学年の時から積み重ねてきた津山市独自の取組の効果が表れてきたと感じている。
- ・ICTの活用は、子どもたちが主体的に学べる方法や好事例を参考に、県教委と協力しながら進めていきたい。

(4) その他

- ・第2回検討委員会の日程

令和3年7月26日(月) 13:30開会

8 その他

9 閉会